磐城新聞

（十日夕刊）

休刊 大祭日翌日 第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 一行五十錢 指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

隨筆

朝の洗面

間高 太郎

「朝の行事」といつた樣な意味の課題のもとに或る雜誌社が名士の回答を求めた事があつた、これに對する菊地寬氏の回答は振つてゐた

「別に人と變つた事はない只僕は朝に顔を洗つた事のない事が變つてると言へば言へるだらう」

と朝に顔を洗つた事がないと言ふのは隨分變つてゐる方だらう

朝に顔を洗はなくも死ぬ樣な事はない。朝に顔を洗ふといふ事は單なる習慣に過ぎない、無意味な習慣にとらはれる必要がないといふのだ

大分亂暴な言ひ分の樣ではあるが然かし一面の眞理は確かにある

成程朝に顔を洗はなければ氣持ちが惡るいといふ事は或は單なる習慣かも知れない。洗ふといふからには汚れてゐるといふ前提がなければない筈だが別に穢てゐて顔が汚れるといふ事も無い理だむしろその意味ならば夜寢る前に洗ふ方が本當だらう

朝に顔を洗ふ事の可否は別問題としても習慣であるがために無くてもよい事又無い方がよい事で衣食住の上に可成行はれてゐる事があるのではあるまいか

朝に顔を洗ふ事を止める事にしやうと突然言はれゝば一寸困る樣に習慣を改めるといふ事は六ケ敷事ではあるが本當に生活改善をしやうとして冷靜に考察したならば平近な處に斷行を要する事柄が大分多い事であらう

靈と肉 □□□□ （十）

平時代の思ひ出

長岡加登晴

新潟の松

柳の町の新潟、美人の國の越後、日本一の長橋で有名な萬代橋、春の砂山もよく佐渡島をはるかにぼつと眺めた格檣は繪圖の樣。

然らば平よ！と別れを告げてこゝに八ヶ月、着任早々平のやうに淋しい感情は起きなかつた。居所は新潟一番の賑ひの街、仲間もなか〳〵多くいつもゐせいよく戰爭が出來た。それに女房役の助手も與へられ平に於ける苦戰に比しこゝではなやかな働をなす事が出來た。うしの日に海岸で夜を徹し傳道說敎をなし全國救世軍のレコードを作つた事もあつた。

又救世軍維持費を得るため毎年春秋に擧行する寄附金募集運動に全國一に標的を突破し破格の成績を擧げ時の司令官イーデ中將にお讃めの言葉を頂戴したこともある。

救世軍 老將矢吹大佐を迎ゑて大講演會を開き繁忙をよそに矢吹師と新潟の宿に細曳きした事など或寺院の僧侶が私を尋ねて與れて共鳴し語り逢ふたなど〳〵言ふ診談。

[illegible]上から下でなく下から降るは新潟ならでは見る事の出來ぬ現象であつた。八ヶ月は夢に夢見るやうに過ぎた。そして再び藤の咲き始むる頃情緒豐なこの地を去らねばならぬ運命となつた。

「長き時柳の岡を加護なて藤の頭まで治め給へる」と私の姓名をもじつて別れの餞けとして與れた人もあつた。送る人は私に將來を期待して居つて與れた。送らるゝ私は何故か熱のない淋しい、色褪せた感じで萬代橋を後にした。

野州の佐野

新潟を後にして佐野に着したのは雨煙る五月、桐花開く頃であつた。

萱屋根の集會所――これは金持ちの信者の多い佐野救世軍の所有物、それに敷地は勿論、裏には竹籔を加へた畠などもあり又財政上も非常に惠まれ一人路傍說敎などは思ひもよらぬ有樣であつた。

平では味噌をなめて過し新潟では家賃の支振ひに困じた事も暫々だつたが今は思ひ出に過ぎなかつた

着任早々私は朋輩から私についての種々な噂を聞いた。或人は言つた。長岡は今度は本部入りをすると又或人は言つた、數年中に留學を命せられる筈だと。その實際は私自身は知らないだが私は本部入りも留學も假令話しはあつて處でなす氣は毛頭なかつた。それよりも私自身の內的生活に大變化が起りつゝあつたのだ

明日の吉凶

新暦五月十一日　舊暦四月三日

▲一白 午前は迷ひに入るも午後は晴々となるべし▲一黒 世話事仲裁は成るべく後日に讓るが吉▲三碧 雜物を整頓し一系亂れざるやうに進むべし▲四綠 妄りに進まず程を守り自然を樂むべき日▲五黄 高座に安居すべき時にあらず自ら勞すべし▲六白 閑散の狀態にあれど中に幸運の兆しを見る▲七赤 口を愼み人の氣を損せぬ樣にすれば吉▲八白 事の大小に論なく投機の業は凡て愼むべし▲九紫 夢には成功を見れど實現することは難き日

講談 [illegible]

（229）

渡邊默禪作　宮野歌春畫

齋藤も意外に驚いたが御厚意は忝けなう存ずるが用意は充分にしてござる、假令用意がなくとも先方に於ては別に難澁は致さぬ、旨黒田參謀にた傳へください」と斷然はねつけた

するご軍使は

「左樣でござるか無用を被仰るのを强いて押附けもされまいでは持參の品だけ進上致したい枉げて御受取りくだされ」

と左の書狀を出して直に歸つて來つた

永々御在陣御苦勞に存候
大阪酒五樽、鮪五本呈進候傍一爐の御總客御振分被成度候也
五月十五日　海陸參謀

此處へ持つて來て榎本から海陸全書を贈り

「是は和蘭留學中修めし珍本、兵火に煙滅するのが誠に惜しいから御保存ありたい」

と申し入れるやら函館病院に傷者兵を收容してゐた高松陵雲、小野權之丞から懇に歸順を勸めてから軍氣は次第に沮喪していづれも前途を悲觀するやうになつた。その夜から筏を組んで濠を越え或は裏門の橋桁を渡つてこそ〳〵と逃出す者など踵をつぐの有樣、踏止まる者も戰死の覺悟をして夫々辭世を詠んでは退屈凌ぎに清書をする、敗殘寥の氣は一城を蓋ふに至つた。

それも無理からぬ事で敵は十數町の近距離にある北東の高地に砲列を布き海上の軍艦と相應じで時々砲擊を加へる彈丸は柘榴の如くに炸裂して頭上に降る、其の度ごとにバタ〳〵と倒れる屍が積んで山をなすのである、埋葬すべき場所がないので外曲輪の土手下を掘つて漸く骸をかくすだけの溝を穿ち、それへ投込んでは其上からバラリと土をかけるといふ悲慘の狀を目擊しては鬼にあらぬ限り勇氣を挫かぬ者がない筈である

鬼梶原は部下の殘兵に出來得るだけの待遇をして不平のないやうにと努めつゝ頻りに勵まし立てゝいたので一同その恩義に感激し飽くまでも死生を俱にしやうと盟つた爲め、此の時になつても一名の脫走者を出さなかつた。

彰義隊の連中もその通りで流石に動搖する色が見ゑなかつた。

或る日梶原は彰義隊の士官等を一猪に集つて酒を飮んだ、酒をいつても殘り少な先頭迄は牛や馬の肉も貯へてあつたがそれも今は品切れ、狗を屠つてごつた煮にしたのが何よりの御馳走だ一同醉が廻つて來ると高調子で話が次第に猛烈になつて來て

「行れ〳〵梶原將軍行れや

れ」と叫ぶ下からワアッと

ふとき。

春向が澤山入荷いたしました
着尺
ナフトール
着尺モスリン
セル
ネル
帶皮
其の他色々
どうぞ御用命を願ます
龜田屋 電話五七

公認
磐城自動車學校
第二期生大募集

本校創立ノ初頭第一期ニ於テ入學生實ニ三十有餘名ノ多數ヲ得タルハ時代ノ趨勢ニ目醒メタル學生ノ奮勵ニヨルト內容ノ充實セルヲ雄辯ニ物語ル事實ニシテ本校ノ欣快トスル所ナリ茲ニ第二期生（六月一日）ノ大募集ヲ開始セリ來リテ本校獨特ノ敎授法ト練習ノ猛烈ナル事實ヲ觀覽セラレンコトヲ希望ス而シテ其眞劍ナル努力ノ眞相ニ直面セバ必ズヤ首肯セラル、所アラン
靑年ノ職業撰擇ハ一種ノ靈威ヲ與フ男子快心笑ミ時代ノ進運ニ乘ゼル自動車ノ運轉手五萬人ノ龍登門來リ學べ
學資ノ低廉ナル亦全國無比六月一日ノ一大好期ヲ逸スル勿レ

本科（三ヶ月卒業）一ヶ月分金二十五圓也 學科實習費共
速成科（二ヶ月卒業）一ヶ月分金三十圓也 學科實習費共
受驗科（一ヶ月卒業）一ヶ月分金三十五圓也 學科實習費共
學則及ビ入學案內申込次第進呈ス
時間貸歡迎
福島縣平町四軒町
磐城自動車學校 電話六四〇番

開店披露
御手輕御料理
美味と廉價が自慢
平町新田町（先島勇跡）
御料理 喜樂

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病 市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時） 電話一一四番

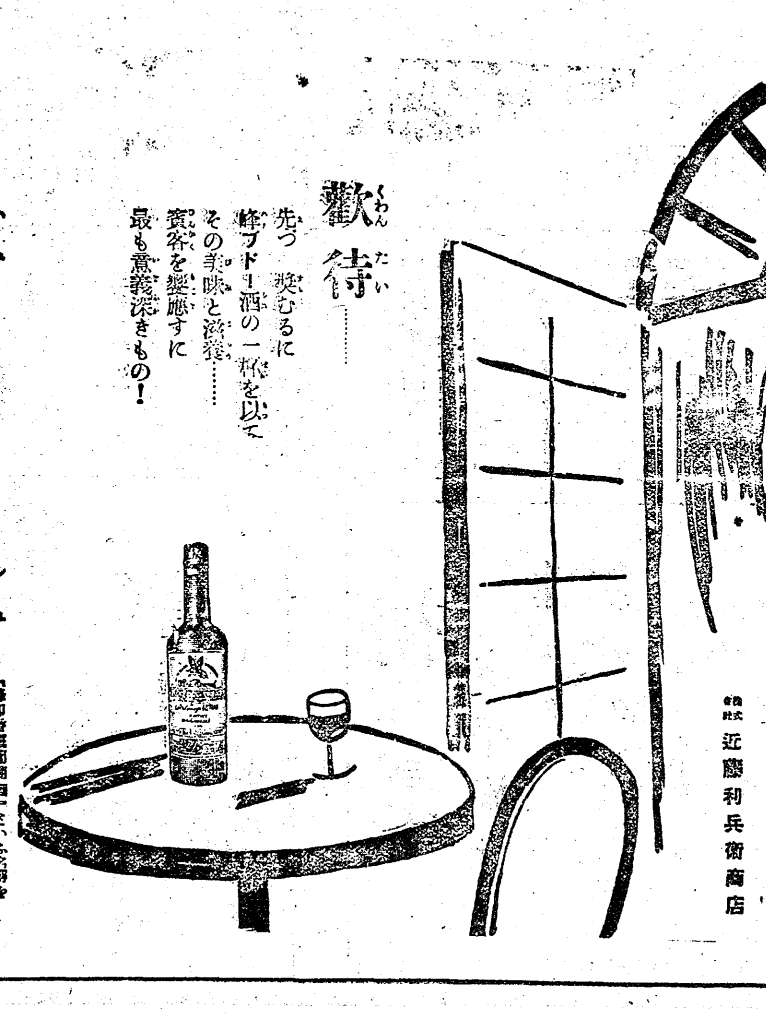
營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ(ツ)ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 (ツ) 阿部石炭商店 電話二三七番

外科
婦人科
內科
X光線科
外科一般 耳鼻科 花柳科 產科 人 外科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモットートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券 復興債券 公債其他 兩替 金融
質物一般 取扱
多田井商店
平町大工町

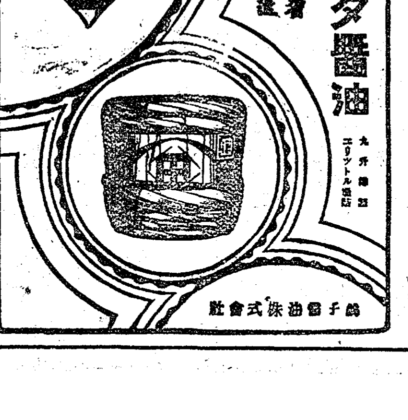
新築落成
耳、鼻、咽喉科 氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

蜂ブドー酒



歡待……
先づ奬むるに
蜂ブドー酒の一杯を以て
その美味と滋養……
賓客を饗應すに
最も意義深きもの！

「蜂印香竄葡萄酒」といふ名稱を皆樣のお奬めに依り且は時勢の推移に鑑み今後「蜂ブドー酒」と改めます なほ市場にある從來のものは其儘として御安心の上引續き御愛飲を願ひます
合資會社 近藤利兵衛商店



特約店 平町田町 廣瀨支店 電話五四番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり栽けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所 電話 六〇三番 五四一番

本縣自動車協會の 平支部創立

けふ平署樓上に於て 役員と協議事項

本縣自動車協會平支部創立發會は九日午前十時より平署樓上に開會したが役員並に協議事項左の如し（支部長）猪狩署長（副）小濱長太郎、野崎滿藏（幹事）平署自動車主任、部長（常議員）平方部は松崎安、白土利助、三井富吉、湯本方部は鈴木稻實、小名濱方部は小野德七郎、野口末松、江名方部瀧口平藏

△協議事項

（一）縣協會寄附金（基本金）

イ、自動車一臺を有する者は三十圓、三臺以下四十圓、五臺以下五十圓、六臺以下六十圓

ロ、自動車販賣業者二十圓、自家用者十圓

以上は三年間に於て二回に分納することに滿場一致決定し

（二）會費

縣協會費（一ヶ月）營業者は五十錢外に車臺一輛に付二十錢宛、自家用及販賣業者は三十錢

（平支部會費）營業者は一ヶ月一圓、自家用、販賣業者は五十錢

各れも滿場異議なく可決決定し午後三時散會した

大和田氏の 銅像延期 此秋には實現

平町私立磐城佑賢學舍長大和田豐吉氏の銅像建立は既報の如く同舍卒業同窓生約三千餘名から寄附を仰ぎ建立すべく卒業生が發起となり奔走してゐるが財界不況のため今秋まで延期し各村から二名の委員を擧げて寄附金募集を開始する事に決した、因に工費は三千圓で建立までには二ヶ年を要する見込みである

郡下の所得收益稅 一萬七千圓減

昨年より二割が減つた 平管內調查終る

平稅務署管內石城郡の四年度所得稅並に營業收益稅は九日決定を見た

△所得稅は人員千二百八十八人所得額二百四十萬四千五百九十五圓此の稅額八萬三千九百五十七圓△營業收益稅は人員千四人收益額百二十八萬一千五百九圓この稅額三萬五千三百四十五圓五十錢でこれを昨年度に比すれば所得稅にたいて人員百十三人稅額一萬四千九百七十五圓即ち一割五分の激減であり收益稅にたいて人員十三人稅額一千九百六十六圓五十錢即ち五分の減で收益稅は新規課稅も相當あつた關係上案外減じてゐなかつた只一流どころには差異尠く減少の原因は中流以下になるらしい尚所得額の激減は當然不況の反映を示してゐるもので如何に郡下の經濟狀態が窮迫してゐるかを充分に窺知するに足るものといへやう

平町政への私見

本社の二問に對し

平町會議員選擧は愈々五月末日に接迫した、而して意義ある普選最初の此の選擧に當面し選擧民各自の有する尊き權利が如何に有効に行使されるか夫れは各自の目醒めたる政治的智識と良心と更に愛町心の反映でなければならぬと同時に立候補者その者の實質的價値を嚴かに詮議せねばならぬ、本社は玆に立候補者並に立候補の噂ある人々に對し左の二問を發し其の回報を紙上に公にし以てその人の政見發表の一端に資する事とした

本社の二問

一、次期（新町會の任期一期間）の平町政上如何なる問題に重點を置かるゝや

二、平町の豫算膨張は今後に於て免れざる傾向にあり之れに對する對策如何

回答（到着順）

高橋龜松

前略貴書拜見仕り候迂生未だ立候補を正式に發表致さゞる理由は多士濟々たる白銀町に於て更に有力の士の立候補を希望しおる結果に外ならず候へども若し有志の推薦に隨ひ立候補の上幸ひ當選を得候場合を假定し御貴問にお答ひ申上候

一、下水道工事の急速實現と小學校舍の完全なる增築更らに理想的の公會堂と大運動場の設置、町政の實力內容の充實を計つて市制實施の促進

二、專ら緊縮方針に基き然して尙ほ己むを得ざる自然的豫算の膨張に對しては平町をして更らに商工業の隆昌を企圖し就中工業地化に全力を注ぐと同時に附近各炭礦との連絡近く實現する小名濱商港の間接的利用方法の開拓私見を述ぶれば大略右の如く爾餘種々多岐に亘つては更らに申上げべく候

佐々木健一郎

一、町民負擔の輕減を主眼として敎育機關の完全なる設備、上下水道の竣工速進

二、緊縮方針、實力的平等の負擔

未回答者氏名

小野圓次郎　川崎文治　吉村安次郎　石山治三郎　吉田寅之輔　柳下元吉　馬目雅治　加納五郎　國府田直良　坂本隆藏　丹野榮三郎　關內正一　千葉彥治　阿部政右エ門　吉田五平　野崎滿藏　宇佐美友次郎　荻原義雄　大森勇　山田磐麿　柏原幸次郎　猪狩庄平　鈴木長三郎　馬目武之助　井上茂作　星野清吉　多田井笑次郎　櫻井清　佐々木龍若　堀江正茂　青沼鉻太郎　花澤久一郎　花澤兎五六　荒川淺次郎　鈴木光吉　松崎菊三郎　荒川恒次郎　永山義太郎　（以上）

七十七の出張所

小名濱に設置の運動 廿日頃迄に實現

商港の實現により一大發展の途上にある小名濱町は現在確實なる金融機關がなくなつて居るので同町有志は七十七銀行支店設置の運動を起した結果漸く設置することになつたが同行の支店は既に平町にある爲更に小名濱町に支店を置くことは事務の繁雜を來すと云ふ理由で本店に於ては平支店出張所の名義で縣を經て主務省に認可申請をしたが地元小名濱町では出張所設置を商港起工式前にしたいと云ふので目下山田平支店長と共に認可促進の運動をなしてゐるが或ひは來る二十日頃までには出張所設置の認可に接するのではないかと見られてゐる

植田大敷網 急速認可申請

石城郡植田町小濱漁業組合が縣に免許出願中同町沖鰤大敷網に對し急速認可方を關係者は古川縣議の案內で八日出縣陳情した

平から關西の旅（九）

城山隱士

伊勢參宮

○神宮參拜は今度の旅行の一目的で所謂本年は御蔭參りの年なれば是非とも參詣せんものと、出發前より沐浴齋戒して心身を潔齋し時季の來るを待つて居たが愈々昭和四年三月二十二日喜ばしくも其時季が來り午後二時を以て宇治橋を渡り神苑內の人とはなつたのである人は云ふ今日午後はゆる〳〵宇治山田市に止宿して益々心身を潔齋し明日早朝を以て參詣せんに如かじと我々は思ふ先祖の神靈を參拜せんに明日を待つ必要は無い平素より身体を清め精神を正しふして待ちに待つたる事とて所謂情緒纏綿として一刻も早く神前に禮拜するは祖先を慕ふ子孫の情なれば今日只今より直に參拜致したきものと汽車より下りや否や更に電車に飛び乘りて內宮停留所に至つた

○茲に申し上げねばならぬ事がある何故內宮を前にして外宮を後にしたかと一体神宮を參拜するには順序があるさうで先に外宮を參拜して然る後に內宮を參拜するのが所謂參拜順序であるさうだが我々は此順序に從ふの時間が無い夫は大々神樂を奉奏する時間が午前八時より午後四時まで〻既に此時刻に切迫して居るからである夫で取り急ぎ參ぱいする事としたのである

○內宮停留所から數十步大鳥居を潛ると直に神宮神苑內で五十鈴川に架けられた宇治橋の前に出る橋を渡つて塵埃一つだに無き、掃き清みられた參道を進み松を植ゑ込み芝生の手入怠り無き中を表見張所前から一の鳥居を通り過ぎて數きつめられた白砂を右手に步一步何となく心の改まる樣に踏み占め行くと其處が五十鈴川手洗場千古の清流に參詣者が奧底から心身を清める處但今日は左手の方に清水混々として沸き出づる御手洗所が新設せられて我々參詣者一同も玆處にて手を洗ひ口嗽き心身を淸めて神前に額づく用意をさ〳〵怠りなかつたのである恐れ多くも　明治天皇陛下が

　さゞれ石の巖となるむ
　末までも五十鈴の川の
　水はにごらじ

の御製も思ひ出されて只々有り難き感じを深うした

　五十鈴川淸き流れは
　皇神のまします限り
　變はらざりけり

など口吟む者ありて愈々千年の老杉古檜森然として天を衝き蒼古幽邃の境域尙仄暗き鬼氣人を襲ふ間を上り二の鳥居を過ぐれば左に神樂殿があつてやがて大鳥居の前に出る玆にて大々神樂を奏し終つて大鳥居を通り石段を上つて御垣の下に跪いて謹で三詣九詣すれば森々とした木立は風靜かに渡つて神下りますかと疑はれ木の間を洩るゝ日の御影にも威靈の添ふが如く思はれて忝なさに感淚の落つるを禁じ得ない心地がする

雜貨屋荒しの 雜品の賊

犯人現場で捕はる

石城郡內鄉村大字綴字一ノ坪雜貨商鈴木金吾方前に十日午前零時頃同村駐在佐藤巡査が巡羅中同家前道路にバナヽ四百匁、ラムネ二本、饂飩三把、リンゴ六個、鷄卵三個、皿一枚を隱してあるを不審に思ひ四邊を注意してゐると同家横ふり一人の男がまたもや商品を持つて出て來たので同巡査は誰何するや俄に逃走し追跡逮捕の上取調べると右は山形縣西置賜郡長井町字宮生れ當時住所不定左官職五十嵐藤次郎（三七）と判明したが平署に引致餘罪ある見込で嚴重取調中である

小名濱町に 大變電所

二本松電氣で

二本松電氣株式會社唯一の發展地となつてゐる小名濱支店は同町商港の實現から將來各種工場の設立を見越し現在の裏店住まゐを大通りに改築移轉すべく目下本社に於て計畫されて居るが、この外更に同町の電化に對して湯本町變電所のみでは到底需用に間に合ぬため支店の改築を同時に十年後の小名町の發展振りを豫想して數十萬圓を投じ同町北部に大變電所を設置することに決定し着々準備を進めてゐる

平町會議員 候補者一覽

本日迄の屆出分

平町會議員候補者として本日迄で平署に正式屆出をなした者の氏名、職業並に選擧事務長氏名左の如し

候補者	年令	職業	選擧事務長
宇佐美友三郎	（　）	藥劑師	同人
野崎滿藏	（　）	藝妓屋	未定
柳下元吉	（　）	製板業	未定
石山治三郎	（　）	建具商	未定
馬目雅治	（　）	凍氷販賣業	金子政通
根本品藏	（　）	米穀商	佐藤源五郎
吉田寅之輔	（　）	縫紋業	長谷川伊左エ門

運炭夫慘死

石に頭を打突け

石城郡內鄉村宮磐城炭礦運搬夫井坂政一（五二）は去七日午後四時半頃同礦外の鐵釣り籠に乘り進行中あやまつて十尺上より墜落し岩石に頭部を碎て即死した平署七海部長檢死した

無一文の客

二名平署へ捕はる

平町長橋町旅館小島屋方に宿泊してゐる二人連れの擧動不審な者を平署員が取調べたところ右は耶麻郡奧川村生れ奧竹喜與（二七）茨城縣久慈郡滿龍町村生れ小野賴七之助（四二）といふ無一文にて宿泊した上去る六日平區裁判所前土地登記公示板から公示書類を盜み土地賣買業者の如く裝ひ喜與は巧にも小島方から十數圓を借うけ九日逃走せんとしてゐたところを捕へられたもので目下嚴重取調中

鶴嘴を振つて 同僚を半殺し

加害者逃げで不明 不動澤坑の喧嘩

石城郡內鄉村大字白水字入山不動澤炭礦長屋居住双葉郡瀧田村大字北田生れ坑夫猪狩常吉（三六）は八日午前十時十五分頃同礦新坑口に於て同僚鈴木直吉（三七）と交代時間の事から口論を始め大立廻りとなり常吉は有合せたゲンノツルを振り上げて直吉の頭部其の他を毆打し昏倒するのを見て其の場から逃走した急報に接した平署では現場に急行して嚴重取調べてゐるが直吉は全治一ヶ月を要する重傷で逃走犯人に就ては八方搜査中である

高久村議 總辭職

選擧期日繰上

石城郡高久村の村會議員選擧は六月五日執行の筈の處選擧期日繰上げの爲め九日村會議員總辭職し來る十八日選擧を執行する事となつた

聯合青年總會

石城郡聯合青年團第五區（箕輪、永戶、澤渡、三坂村）青年團總集會は十二日午前九時から澤渡小學校において開催される講師として中會根敎育主事が出席して講演をなす

霧笛信號 破損

吹鳴不能となる

石城郡豐間村鹽屋岬霧笛信號は八日夜破損吹鳴不能に陷つた旨九日縣に報告あつた、同信號は本縣沖合航行の船舶に對し萬一の場合かくべからざるものなので急速修理を施すことになつた

製炭地視察

等級檢査施行の濱三郡木炭同業組合ではいよ〳〵熱望してゐる等級檢査が施行さるゝに至つたので二十日より約一週間石城より三名双葉相馬より各二名都合七名の組合員を日本一の產と地して常に他縣產品を壓倒してゐる岩手縣下閉伊郡下に製炭狀況及荷造り及俵裝改造方法等級檢査施行方法等の視察を行ふ筈で目下希望者の募集中である

顚癇女湯陀佛 石城

石城郡植田町大字東田字鹽田渡邊トク（四六）は七日午後三時頃同町澁川湯にたいて入浴中てんかんを起し卒倒死亡した

磐新塔

平町にたける町會議員の改選もいよ〳〵後二旬に迫つて來たので各町內ではそれ〴〵適任者の詮衡に多忙を極めてゐるが今次の選擧は普選第一回の選擧だけに立候補せんとする人々の職業について見るも從來の樣に有產階級で有閑級の人々許りでなく藥劑士をはじめ藝妓屋、製板屋、紋屋、綿屋、染物屋、請負師吳服屋など〻今までにないやうな顏觸れで一ヶ年も二ヶ年も風雨にさらされるあのポスターが候補者からもぎ取られるといふことも選擧期日の切迫と共に或る意味において物さびしさを感じさせられる

吉田眼科醫院

時評

平管內の所得、收益稅額一萬七千圓減

□

喜ぶところか、出すに出されない餘儀ない事情なんだ

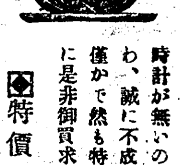
□

罷り出た候選の平町會議員候補者、特に怪物の正体に御目止めあれ

□

植田町長けふが決選投票の日、復數が單數へ、納まる所へたさまる迄で

學生用腕時計元價提供



時計が無いので學校が遲れたなどわ、誠に不成績の原因となります僅かで然も特價で求られる此時期に是非御買求を願ます

◉特價保險付品

一クローム 男用十形 女用九形 瑞西製

十五石入腕時計

一金六圓八十錢均一

平三 大谷時計病院

電話一一九番

初夏

本年流行

◆婦人洋傘

◆ワイシャツ

◆ネクタイ

各種

ツルヤ

平町四丁目 電一四〇

內科 小兒科 其他一般（入院隨時）

前田醫院

植田町本町（電話一二四番）

前田清美

（看護婦見習募集優遇）

生花敎授

池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町十五丁目通り

須藤まつの

母ミイ儀永々病氣の處藥石効なく本日午後一時死去致候間此段謹告仕候

追テ葬儀ハ五月十一日午後二時自宅出棺大館大林寺ニ於テ告別式執行仕候

昭和四年五月九日

好間村中好間岸一番地

磐城商工時報（平町）

喪主　渡邊源吉

外親戚一同